

平成28年度学術研究功績賞受賞者一覧

No.	候補者	学部等	内 容
1	森下 俊一郎 講師	商学部	<p>『サービス学研究の国際学術会議「ICServ2016」でのBest Paper Award 受賞』</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス学研究の国際学術会議である ICServ2016 において、Best Paper Award (大会優秀賞) を受賞した。本賞は、世界中のサービスに関する研究者から応募され、審査を通過した約70件の論文の中から選ばれた、国際的に優れた論文に対して贈られる賞である。論文のタイトルは、“Omotenashi Management in Onsen Ryokan : A Case study of Kurokawa Onsen in Kyushu , Japan” であり、優れた“おもてなし”はマニュアル化するのが難しく、その知識や技能は個々に依存する暗黙知が基となっている。本研究では、優れた“おもてなし”を地域全体の旅館で提供・創出している「黒川温泉」の事例に着目、調査し、暗黙知の組織的マネジメントのフレームワークとして理論的にモデル化し、既存の先行研究にはない学術的貢献として評価された。
2	日垣 秀彦 教授	工学部	<p>『日本機械学会バイオエンジニアリング部門業績賞受賞』</p> <ul style="list-style-type: none"> 本賞は、前年度末までに発表されたバイオエンジニアリング関連の研究及び技術の中で優秀と認められる業績を挙げた個人に贈られるもので、日本機械学会 (会員数約4万人) におけるバイオエンジニアリング部門 (登録数約2千人) の中から毎年1名もしくは2名が贈賞され、学問分野を代表する荣誉ある功績と認められる。

平成28年度社会貢献賞受賞者一覧

No.	候補者	学部等	内 容
1	諫見 泰彦 准教授	工学部	<p>『官学連携及び産学連携による社会貢献』</p> <ul style="list-style-type: none"> 被推薦者は、佐賀県三養基郡基山町空き家等対策協議会副会長、福岡県遠賀郡岡垣町都市計画審議会副会長等の行政委員を歴任している。このうち基山町では87戸の空き家が存在し、4戸は倒壊の恐れがあったが、被推薦者は、学識経験者として同町が取り組む空き家対策をまとめた「基山町空き家等対策計画」の作成に尽力するとともに、同町のまちづくり・まちおこし、特に町外からの移住促進の一助として、学科の専門性を活かし空き家のリノベーションによる住宅の整備を実現した。 株式会社 cross fm、株式会社ハウスメイトパートナーズ、株式会社レオパレス 21、株式会社三好不動産等からの委託研究に取り組んでいる。このうち cross fm では、同局のスタジオが入居する小倉駅前 COLET/I'm ビルの屋上菜園「天空の HATAKE」を、同局の聴取者と協働で再生する活動を主宰している。被推薦者の専門である都市デザインの視座から、都心の商業ビル屋上の生活空間としての可能性に着目した研究であり、都市環境の改善に大いに役立つことが期待されている。
2	<p>榎 泰輔 教授</p> <p>青木 幹太 教授</p> <p>聞間 理 教授</p> <p>山本 星俊 職員</p>	<p>工学部</p> <p>芸術学部</p> <p>経営学部</p> <p>総務部</p>	<p>『希望の明かりプロジェクトによる東日本大震災被災地復興支援活動』</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災発生時から継続して活動しており、3学部が軸となり学部横断型の事業として推進してきた。目的は被災地住民と心の交流、福岡市民との絆をつくることである。主にボランティア活動が低調となる冬期に現地訪問、保育園、高齢者介護施設、市役所などを訪問し、単なるボランティアではなく大学の専門性を生かした内容を毎回行なっている。(芸術学部がデザインし、工学部が内部機能を担当し、ねぶた人形などを製作、現地に披露した。) 参加学生数はのべ200名以上(現地訪問120名)である。訪問先はのべ50か所を超える。こうした活動が被災地復興の一助となったと考える。成果の報告として、報告集の作成や報告会の開催がある。今年1月には陸前高田市で全国から参加した大学とともに活動を発表する機会を得た。本学は九州から唯一の参加である。その他、本学で語り部やNPO職員を招いた講演会を開催している。学生へアンケートをとり教育効果を検証している。70-100%の学生が社会人基礎力や専門スキル等について効果があったと回答している。なお、初年度(2011年)の活動は既に功績表彰を受けている。
3	<p>星野 浩司 教授</p> <p>佐藤 慈 教授</p> <p>荒巻 大樹 助教</p> <p>青木 幹太 教授</p> <p>佐藤 佳代 准教授</p> <p>井上 友子 教授</p>	芸術学部	<p>『地域産業プロモーションにおける地元企業との連携による商品開発やPR活動』</p> <ul style="list-style-type: none"> 本活動は福岡県を中心とした中小企業と大学が連携し、商品やブランド開発、PR活動を通して、地域産業の振興やそのための人材育成を目的としたもので、2008年から開始し、本年度で9年目を迎える。主な企業には博多織、博多人形、久留米餅、大川家具などのほか、福岡市内や宗像や筑後の食品など、毎年30社以上が参加し、参加学生は1年次生から大学院まで約100名程度である。既に多くの開発商品が市場で流通し、プロジェクトに参加した学生は産地や関連企業に就職している。活動成果は福岡市内の商業施設で展示・公開し、2014年からは展示と併せて開発商品を販売し、市場性の検証を行うなどより企業現場や社会に沿った活動になっている。毎年、新規に企業や行政が参加するなど、本学の社会貢献事業として定着し、商品の中には本学の来客用のお土産や卒業生の記念品に採用されるなど、学内外でも評価されている。
4	稲永 健太郎 准教授	情報科学部	<p>『県内の地域コミュニティの情報化推進』</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度より構築を進めてきた香椎校区自治協議会の公式ウェブサイトが、平成28年4月1日に運用が開始され、また、香住丘校区自治協議会の公式ウェブサイトが、平成28年6月1日に運用が開始された。運用開始後、協議会の自主的な運営のための運用講習等の支援を継続している。なお、平成27年4月に運用開始した千早校区自治協議会の公式ウェブサイトについても現在まで運用講習等の支援を継続している。 宗像市日の里地区コミュニティ運営協議会のFacebook ページ立ち上げおよび運用に関して、協議会広報部会主催の講演会において講演を行い、気運醸成に協力した。